



十日町市長 関口 芳史

行委員会」が選ばれました。これを契機に、首都圏などの産業・経済界の皆さんとつながりを深め、当市喫緊の課題である人口減少対策にさまざまな分野で取り組んでいきます。

2019年12月以降、爆発的に世界へ広がった新型コロナウイルス感染症により、私たちの価値観は大きく変化し、明治維新や第2次世界大戦の敗戦以来の大きな転換期にあると考えています。今、全ての人がこれまでの生き方、考え方を改めて見つめ直し、新たな時代に向けて歩みを進めていかななくてはなりません。

東京一極集中から地方回帰の流れが生まれる中、私たちはポストコロナにおける「人々の価値観の変化」をチャンスと捉え、新たな十日町市の創造に向けて全力で取り組んでいます。

十日町市の最大の魅力は、世界有数の豪雪地帯で先人より脈々と受け継がれてきた里山の自然と、そこに根付いた雪国文化です。これは当市発展の礎となった「新市将来構想」においても、新市のまちづくりの視点として記されている内容です。

これらの魅力は、2020年に「究極の雪国とおかまち ―真説！豪雪地ものがたり―」として、国の日本遺産に認定されました。国内の数ある豪雪地の中で「豪雪のストーリー」を日本遺産にしているのは十日町市だけであり、私たちはこの豪雪で育まれた豊かな自然や雪国文化を唯一無二の資産として、さらに磨き上げていかなければなりません。

また、地域活性化を目的として2000年から20年以上にわたり取り組んでいる「大地の芸術祭」は、国内各地でアートによる地域づくりが行われるようになった今日においても、その先鞭性や革新的な発想から、パイオニア的存在として国内外で大きな注目を集めています。そしてこれらの取り組みが高く評価され、2021年には日本経済団体連合会から地域共創アクションプログラムの連携先の一つに「大地の芸術祭実

新たな十日町市の 創造に向けて

